

2024(令和6)年度埼玉県・オハイオ州スカラシップ

〈語学・大学留学コース〉

“Discovery”：2月報告レポート

2024(令和6)年度奨学生 福澤 心結

皆さま、こんにちは。

1月は履修手続きや新しい環境に慣れるのに戸惑うことも多かったのですが、2月に入り、ようやく落ち着いてきたように感じます。今月のレポートでは、私が受講している授業の内容や、授業以外の時間の過ごし方についてご紹介したいと思います。

	月	火	水	木	金
1 09:00 + 09:50	writing and grammar Frst 304	9:30-10:50 English for specific purposes Davis179	writing and grammar Frst 305	9:30-10:50 English for specific purposes Davis179	writing and grammar Frst 304
2 10:00 + 10:50	writing and grammar 未登録		Experience in Japan Japanese ho...		
3 11:00 + 11:50	speaking and listening Davis178	11:00-12:20 Child development 未登録	speaking and listening Davis178	11:00-12:20 Child development 未登録	speaking and listening Davis178
4 12:00 + 12:50	reading and vocabulary Frst305				speaking and listening 未登録
5 13:00 + 13:50	reading and vocabulary 未登録		reading and vocabulary Frst305		reading and vocabulary Frst305
6 14:00 + 14:50			Cultural Connection s2:00-3:30 Davis186		
7 15:00 + 15:50					
8 15:30 + 16:50	Introduction to Japan oldmain3			introduction to Japan 未登録	
9 17:30 + 18:30	Genki kids 未登録	TESOL17:00-20:00 未登録			
10 19:00 + 21:00	symphony band 未登録				

私は現在、IELP(Intensive English Language Program)コースを受講しており、主に英語を中心に学んでいます。

時間割は左に記載した写真の通りです。そして、補講という制度があり、IELP コース以外にも下記の授業を受講しています。Language Acquisition TESOL(第二言語学習者に対する言語習得の仮説や理論を学ぶ授業)、Child Development (児童発達心理)、Introduction to Japanese(日本の地理・歴史、および物質的・知的・精神的側面を含む文化を学び、日本人の行動や価値観の基盤を理解することを目的とした授業)、Genki kids(アメリカの小学生と一緒に日本語を学ぶ授業)、Experience Japan(日本語学習者と一緒に議論や活動を取り組む授業)、Symphonic Band(吹奏楽)をとっています。

ほぼすべての授業で感じるのですが、教授の魅力強く感じます。どれも少人数の授業で、講義というよりも、自然な対話が進行するような雰囲気の中で、どの授業も知識が豊かに溢れており、その学びの深さを大変気に入っています。学生だけでなく、教授自身も授業を楽しんでいることが伝わり、その姿勢が学びの意欲をさらに引き出してくれます。

先日、Symphonic Band のコンサートにピアノパートとして参加しました。本番は非常に緊張しましたが、周囲の仲間や Dr. Kingのおかげで、演

奏はとても楽しく、演奏が終わった瞬間には大きな達成感を感じることができました。友人たちが見に来てくれたこともとても嬉しかったです。



↑授業で脳の模型を作った際の写真



↑ Symphonic Band のコンサート

授業外では、水曜日にアルティメット（フリスビー）という競技をしたり、木曜日には学校内のジムでピラティスを行ったりしています。夜に時間があるときは、友人とボードゲームやカードゲームを楽しんだり、イベントに参加したりしています。

アルティメットという競技をご存じでしょうか。私自身、最初は全く知らず、フリスビーと聞いたときには、キャッチボールのように投げて取って遊ぶものだと思っていましたが、実際は想像していたものとは大きく異なりました。

1968年に高校生のジョエル・シルバーが考案し、アメリカ合衆国ニュージャージー州メイプルウッド市のコロンビア高校で最初のゲームが行われた7人制のチームスポーツで、100m×37mのフィールドでフライングディスクを落とさずにパスをして運び、コート両端のエンドゾーン内でディスクをキャッチすれば得点となるスポーツです。他の球技にはないディスクの飛行特性を操る技術や走力、持久力を必要とすることから「究極 (Ultimate)」という名前が付けられたそうです。ゲーム中は、失敗しても成功してもチームメイト全員とハイタッチを交わし、男女混合でプレイするため、体格差や実力差があっても平等に楽しめているように感じます。週に一度、思いっきり体を動かすお気に入りの時間です。

ジム内にはゲームをするスペースがあり、スイッチやエクスボックスが設置されています。特に、マリオカートやスマッシュブラザーズが人気だと知り、任天堂のゲームがここでも大きな存在であることに驚きました。



↑スケート



↑アート



↑マリオカート

また、大学の団体が頻繁にイベントを企画してくれるため、毎日飽きることなく充実した生活を送っています。特に印象に残っているのは、ブラックタイイベントです。大学の学生団体が主催したこのイベントでは、音楽が大音量で流れる中、みんなが素敵なドレスやメイクでおしゃれをして、ダンスを楽しんだり、美味しい料理を味わったりする時間を過ごしました。私自身、ダンスにはあまり馴染みがなかったのですが、その空間自体が新鮮で、とても良い経験となりました。また、学校内のプールでスキューバダイビング体験をしたり、街中でアートを鑑賞するイベントにも参加しました。さらに、バスケットボールやアイスホッケーの観戦も楽しみました。試合会場では、チアリーダーのパフォーマンスやバンドの演奏が行われ、会場全体が一体となってチームを応援する姿がとても印象的でした。



↑バスケの試合

↑ブラックタイイベント

日本の大学のサークルや部活動は、特定のコミュニティのメンバー中心になりがちですが、アメリカでは学内に住む学生の割合が多いためか、誰でも参加しやすいオープンなイベントが圧倒的に多いと感じています。そこで、こうしたイベントがどのような目的で行われているのかが気になり、Student Activities Board (学生主導で運営される芸術、エンターテインメント、講義プログラムを担当する団体)の一員にお話を伺いました。イベントを企画することによって、学校をより魅力的に、活気ある場所にするのはもちろん、マーケティング、ビジネス、会計などの分野で実務経験を積むことができ、それが自分の経験にも繋がるというお話をいただきました。また、それぞれの団体が活動に必要な資金を大学から支給されるという点も、学生全体を対象としたイベントを開催する際のハードルを下げていると感じました。

↓スノーボード

↓スキューバダイビング

↓カードゲーム



最後までお読みいただき、ありがとうございます。

今後の奨学生の方々や、このプログラムに興味をお持ちの方々に対して、できる限りのサポートをさせていただきたいと考えております。ご意見やご質問がございましたら、fukuzawam@findlay.eduまでどうぞお気軽にご連絡ください。皆さまからのご連絡をお待ちしております。

参考文献

一般社団法人日本フライングディスク協会ホームページ

(2025年3月9日取得、<https://www.jfda.or.jp/introduction/ultimate/>)